

若者目線で地域活性化を研究 県立大と人吉高によるフィールドワーク

コロナ禍や豪雨災害後の地域コミュニティや行事を研究するため、7月10日に熊本県立大の学生と人吉高の生徒が、中心市街地でフィールドワーク（現地調査）を行いました。

学生たちは、七日町町内会と共に八坂神社の清掃に参加した後、同町内の皆さんにインタビュー。その後中心市街地を歩き、祭りが行われてきた神社などを回りました。参加した人吉高3年の今田美羽さん（鬼木町）は、「人口が減る中、地域行事への若者の参加が課題だと思います」と話していました。



学生たちは調査・研究を続け、市に地域活性化策を提案予定です。

まちに再びにぎわいを 「人吉紺屋小町」整備事業安全祈願祭

令和2年7月豪雨で被災した紺屋町通りの一角に、食の魅力発信拠点「人吉紺屋小町」を新設する事業の安全祈願祭が、7月4日に同所で行われました。同事業は、被災建物などを公費解体した後の空き地に飲食店街をつくるもので、イベントで活用できる広場やキッチンカーの出店にも対応できる駐車場を併設予定。

被災地ににぎわいを取り戻そうと、厚地洋一さんたち3人が合同会社紺屋小町を立ち上げて事業を進めていて、今年12月にオープン予定です。



建設予定地は紺屋町通りに面する場所で6店舗が入居予定です。

磨き抜いた消火技術競う 第12回人吉市消防操法大会

人吉市消防操法大会を、7月3日にスポーツパレス駐車場で開催し、出場した13部の団員が訓練の成果を披露しました。新型コロナウイルス感染症や豪雨災害の影響で4年ぶりの開催。競技は、4人1組で小型ポンプのエンジンを始動して3本のホースをつなぎ、約60メートルの標的に向かって放水する動作の正確さや速さを競うもの。優勝したのは、第6分団第1部（東間上・東間下）でした。同部は9月に玉名市で開催予定の県大会に本市代表として出場予定です。



タイム、規律共に高得点だった第6分団第1部の操法



賞状を手に笑顔の第6分団第1部選手の皆さん



火に見立てた標的に向かって全力疾走！

夏の暑さを吹き飛ばせ 市民プール営業中

今年も市民プールが7月1日にオープンし、連日子どもを中心ににぎわっています。7月の3連休初日の16日は朝方まで降り続いた雨もやみ、最高気温31.5度と絶好のプール日和に。暑い日差しにも負けず、117人が訪れ水泳や水遊びを楽しみました。人吉西小1年の高木涼乃介くんは「泳ぎの練習にきた」と話し、ばた足や潜る練習に励んでいました。

豪雨災害で被災し50メートルプールは利用できませんが、25メートルと幼児用の円形プールが利用可能。8月31日まで営業中です。



元気な子どもたちのはしゃぎ声が響く市民プール

被災を機にできたつながり 温泉町と益城町の交流会

熊本地震後に仮設団地で小物づくりなどをしてしている団体「和ごころ」（上益城郡益城町）が6月26日に温泉町を訪問し、交流会が開かれました。温泉町を拠点に被災写真の洗浄ボランティアをしている「あらいぐま 人吉」に、和ごころが写真返却時の手提げ袋などを提供していたことがきっかけ。

当日は和ごころの活動紹介後、温泉町の皆さんが小物づくりに挑戦。温泉町の祝町内会長は、「みんなが楽しめたようによかった。また来ていただきたい」と話しました。



教わりながらビーズ飾りを作る温泉町の皆さん

復興に向かって2年ぶりの船出 球磨川くだり運航再開

令和2年7月豪雨で出発拠点の施設が被災し、球磨川に土砂などが流れ込んだことから運休していた球磨川くだりが、7月23日に運航を再開しました。

同日は千葉県や滋賀県などから約30人の予約があり、第1便が午前11時に出発。阿蘇郡西原村から来た女性は「人吉に住んだことがあります。球磨川くだりは初めて。楽しみです」と胸を弾ませながら乗船。船頭を務めた板崎秋広さんは「本来の清流コースより短い区間でしたが、お客さんに楽しんでもらえてうれしかった」と話しました。



運航区間は発船場（下新町）～くまりば（相良町）の2.5キロ

中核工業用地に企業進出が決定 企業進出協定書調印式

原木を仕入れ住宅資材の製造を行うランバーやまと協業組合（上益城郡山都町）が、人吉中核工業用地（上漆田町）にヒノキ専門の製材施設を新設するため、6月29日、市役所で企業進出協定書調印式を行いました。

同組合が使用する原木の6割が人吉球磨産であるため、輸送にかかるコスト削減などを目的に本市への進出を決定。地域活性化のため地元採用を積極的に、「林業の力で人吉を盛り上げたい」と同組合代表理事の児玉利貞さんは話しました。操業開始は令和5年4月の予定。



人吉中核工業用地に初めて企業が進出